

地域建設委員会 視察報告

五月十一日から十三日にかけて、北海道において行政視察を行った。

札幌市では「さっぽろ学校フードリサイクル事業」について研修した。学校給食を作る過程で発生する残食などの生ごみを堆肥化し、その堆肥を利用して作物を栽培し、学校給食の食材にするという食物循環事業であった。残食のリサイクルだけでなく、食育や環境を考えた市内の横断的な取組みは、本市でも導入したい内容であった。



札幌市でフードリサイクル事業について研修

江別市では「江別の顔づくり事業」商業等活性化事業」について研修を行った。交通の基盤整備計画と商店街の活性化をいかに進めていくかが春日市も今後の課題であるため、地域交流活動と商店街の連携、魅力ある商業活動の展開、高齢化社会を意識したサービスや事業展開、長時間過ごせる居場所づくりなど、商店街、地域や行政が一体となつて取り組もうとしている点が参考になった。



恵庭市でブーケス制度について研修

恵庭市では「えにわブーケス制度」について研修した。市民との協働によるまちづくりの推進を目的に、非営利で公益的な社会貢献活動を行う団体等について、支援する団体を市民自ら選ぶものであり、市民参画の機会の創出と関心を深めるもので参考になった。

市民厚生委員会 視察報告

五月十二日から十四日にかけて、沖縄県において行政視察を行った。

浦添市では「国保税滞納者の自立支援」について研修した。滞納者の状況を見極めながら、債務整理の手助けを行うなどの生活支援の取り組みにより、毎年九十五%前後の高い収納率を維持しており、相談機関との連携や人材育成などの大切さを痛感した。



那覇市で就労サポートセンターを視察

就労サポートセンター・ミラソル(那覇市)では「就労サポート事業」について研修した。グループ就労訓練プログラムなどの説明を受け、施設で訓練風景の見学を行った。三障害に対応して、一般就労を目的とした支援を行い、就職率九十四%で、定着率も九十%と高く、自立のためのプランニングを障害者本人が行うよう指導していることなど学ぶことが多かった。



自立プラザ希織での研修

自立プラザ希織(沖縄市)では「障害者職業訓練及び生活訓練事業」について研修した。社会参加や就労自立の準備支援、縫製・木工作业、企業内授産などの訓練を行っており、生活支援の観点から、支援センターと連携して事業を行っていることに大変共感が持てた。

三箇所とも大変有意義な視察研修を行うことができた。

編集後記



残暑厳しい折ですが、「ジィ、ツクツクボーシューツクツクボーシュー」と、蝉の声にも夏の終わりを感じさせられます。

日本には、季節の変わり目として「八十八夜」や「二百十日」「二百二十日」が受け継がれています。いずれも立春から数えた日ですが、農作業や日々の生活の目安とされてきたものです。特に「二百十日」「二百二十日」は、台風などによる暴風雨への注意を喚起するものです。

この機会に、防災への備えを見直したいものです。(洋)

※ 訂正
6月に発行した市議会だよりの編集後記中、「白妙」が校正の際に「白砂」となっていました。訂正してお詫びいたします。

議長	坂本 靖男
委員長	近藤 幸恵
副委員長	長能 文代
委員	與國 洋